

令和4年第1回那覇港管理組合議会（2月定例会）

令和4年度 施政方針

令和4年2月1日

那覇港管理組合

令和4年度 施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

新型コロナウイルスのオミクロン株への置き換わりが進み、感染が全国的に急拡大しております。県民・事業者の皆様におかれましては、引き続き接触機会の低減と、マスクの着用、小まめな手洗い、換気の徹底など、基本的な感染対策の徹底をお願い申し上げます。

昨年11月来、沖縄県及びその近海は小笠原諸島ふくとくおかのば「福德岡ノ場」の火山噴火に由来するとみられる軽石の漂着が続いており、那覇港においても対策をしっかりと行ってきたところであります。

また、去る1月15日の、南太平洋・トンガ諸島付近の海底火山の大規模噴火に伴う潮位変化により、沖縄を含む太平洋側全域を中心に、津波警報や注意報が発せられたことから、那覇港管理組合では、直ちに警戒本部を立ち上げ、警戒態勢を整えておりました。引き続き、物流、人流に影響を来すことのないよう関係機関と密に連携を図ってまいります。

さて、本年は沖縄が本土に復帰してから 50 年となる節目の年であり、さらに那覇港管理組合設立 20 年の記念すべき年でございます。

那覇港管理組合の設立及び那覇港の発展にご支援、ご尽力いただいた国、沖縄県、那覇市、浦添市及び港湾関係企業の関係者の皆様へ敬意を表するとともに、那覇港が「新時代沖縄」の牽引役として、東アジアをはじめ、世界の架け橋として更なる成長発展を遂げるよう引き続きご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和 4 年第 1 回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたって「運営の基本方針」、「令和 4 年度予算編成」、そして「令和 4 年度の主要施策の概要」の 3 つからなる施政方針を表明させていただきます。

まず、はじめに「運営の基本方針」について申し上げます。

本土復帰 50 年「新時代沖縄」が幕開けし、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」「ポストコロ

ナ」のニューノーマルへと時代がめまぐるしく変化する中において、那覇港はアジアの中継拠点港として成長著しいアジアのダイナミズムを取り込み、沖縄県経済の発展及び県民所得の向上を図るため、那覇港は、アジアの中心に位置する地理的優位性を活かし、物流・人流の両面における発展を目指してまいります。

コロナ禍における那覇港の取扱貨物量は、公表されている最新の2020年港湾統計において、前年より3.9%減の1,343万トンとなっております。また2020年の外貿コンテナ貨物量は、約8万5千TEUで、前年より3.3%減となっております。

貨物量の落ち込みを最小限に留めているのは、国際公共コンテナターミナル運営会社や、船社、港湾運送事業者などの物流関連事業者の努力と対策によるものと考えております。

貨物量増大に向けて、那覇国際コンテナターミナル株式会社と連携し、引き続き、コンテナターミナルの高度化、新規航路誘致等の施策に取り組むとともに、内貿と外貿の連携強化や移入から輸

入への転換など、国際競争力のある物流拠点の形成を図ってまいります。

国際流通港湾としての機能強化を目的として整備した那覇港総合物流センターは、令和元年5月の開業後、コロナ禍においても、その影響を最小限に留め計画値を達成しており、引き続き、物流の高度化、流通加工等の付加価値型産業の集積に取り組むとともに、運営事業者と連携を図りながら、集貨・創貨による輸出貨物増大を目指します。

クルーズ船の寄港状況につきましては、令和元年に全国1位となったのち、令和2年3月以降、クルーズ船の寄港が無い状況が続いており、1年以上に渡り、経済活動の主軸となっている観光関連産業を含め経済全体が新型コロナウイルスの影響で甚大なダメージを受け続けております。

一方、那覇港への寄港予約を例年どおり国内外のクルーズ船社より受け付けており、これまで同様、那覇港への寄港意欲はいささかも衰えておらず、沖縄に対するクルーズ船社の関心は依然とし

て強いものがあります。

このような状況において、国内クルーズ船受入体制の構築に向け、港湾、医療、搬送、観光の関係機関で構成する「沖縄県クルーズ船受入那覇・南部地域協議会」を昨年3月に設立したところであり、ウィズコロナ・アフターコロナの時代を見据えたクルーズ船受入について、関係機関と連携し、クルーズ振興の促進を図りながら、安全・安心の確保に努めてまいります。

また、次期沖縄振興計画である「新たな振興計画（素案）」に示された、フライ&クルーズ等の付加価値の高いクルーズ誘致を含めた多様なクルーズの受け入れ環境の整備に取り組むとともに、浦添ふ頭地区においては、富裕層の長期滞在型観光の拠点となる世界から選ばれる持続可能な観光地の形成に向けて、自然環境を活かし、マリーナ・ビーチ等から構成する観光・ビジネスの拠点形成の実現に向けて取り組みます。

近接するアジア地域の経済発展や経済グローバル化、人口減少社会の到来等、我が国、沖縄県、

那覇港を取り巻く社会経済情勢は、平成 15 年の港湾計画改訂当時から大きく変化しております。

このような状況を踏まえて、概ね 20 年から 30 年先の長期的な視点に立った那覇港の将来構想、ビジョンの策定に向け、現在、「那覇港長期構想」の策定に取り組んでいるところです。

その長期構想に基づき、港湾の開発、利用及び保全の指針となる「港湾計画」の改訂等を行い、将来にわたる沖縄県全域の持続可能な発展の推進力となる「みなとづくり」を進めてまいります。

災害に強い県土づくり、いわゆる「社会基盤の強靱化」の一環として、緊急物資輸送機能を有する施設整備等を進め、また、老朽化した港湾施設の改修等を実施し、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めてまいります。

さらに、那覇港の経営基盤の強化に向け、将来にわたり安定的・継続的な港湾サービスの提供が可能となるよう、歳入の確保を図り、事業の選択と集中に取り組んでまいります。

次に、「令和 4 年度予算編成」についてご説明申

上げます。

令和4年度の予算編成にあたっては、ただいま申し述べました基本方針に基づき、限られた財源を重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、令和4年度予算案は、

一般会計において 35億5,285万7千円

特別会計において 40億6,287万6千円

の規模となっております。

最後に、「令和4年度の主要施策の概要」について、ご説明申し上げます。

1つ目に、「国際流通港湾としての機能強化」について申し上げます。

総合物流センターの第1期事業の取扱量は計画値を達成しており、第2期、第3期の事業につきましては、企業の動向等を踏まえ、民設民営を目指して事業化の可能性等について、引き続き、検討してまいります。

また、海上物流コストの低減に資する片荷輸送の解消、貨物量増大に向け、荷主及び船社を対象

とした支援を継続・発展させるとともに、新たな支援制度として、移入から輸入への転換や那覇港を利用する輸送の効率化、および輸送経路の多様化を目的とした那覇港輸送効率化支援事業を実施してまいります。

さらに、那覇国際コンテナターミナル等における物流システムの高度化に向けた基本構想の調査検討を引き続き実施します。

2つ目に、「国際観光・リゾート産業の振興」について申し上げます。

那覇港は、平成31年4月、国土交通大臣から国際旅客船拠点形成港湾の指定を受け、官民連携による旅客ターミナル整備に向け取り組んでおり、沖縄県の観光振興に寄与する長期的かつ安定的なクルーズ船の寄港を促進してまいります。

第2クルーズバースの供用を見据え、フライ&クルーズ、北米西海岸やオーストラリア発のラグジュアリークラスのクルーズ船など寄港増に向けた多様化を目指し、引き続き、沖縄県及び観光関係団体と連携しアフターコロナを見据えポートセ

ールスの展開を図ってまいります。

3つ目に、「安らげる空間づくり」について申し上げます。

泊ふ頭地区及び三重城地区における護岸整備に合わせて、散策して楽しいウォータフロント空間の創出を図るため、プロムナードの検討を行います。

また、波の上うみそら公園を中心にして、賑わいのあるみなとまちづくりに取り組むなど、那覇港の魅力向上を図ってまいります。

4つ目に、「港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化」について申し上げます。

大規模地震発生時に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、沖縄県の緊急輸送道路に指定されている臨港道路 港湾2号線における液状化対策を進めてまいります。

老朽化が顕著な港湾施設の安全性を確保するとともに、予防的な保全による既存施設の延命化や建て替え等を計画的に実施します。

泊ふ頭地区及び三重城地区海岸につきまして

は、護岸の老朽化が著しいため、新規に護岸整備を進めてまいります。新港ふ頭地区においては、上屋の老朽化が著しいため、上屋建替の整備を進めてまいります。

5つ目に、国の事業である臨港道路若狭港町線の整備に伴う新港ふ頭再編に関しまして、ふ頭用地確保のための埋立造成を進めてまいります。

これらの施策を進めるため、令和4年度予算に所要額を計上しております。

以上、令和4年度的那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な施策について述べてまいりました。

今後とも、那覇港が県内港湾の中核的な役割を果たし、沖縄県の経済発展と県民生活の向上に寄与できるよう全力を尽くす決意でございます。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を強くお願い申し上げます。私の施政方針といたします。

イッペー、ニフェーデービル。